



3/12

TPPを考える国際シンポジウム 全国から千五百人が集結



TPPを考える国民会議は、TPP交渉参加反対に対する街頭演説、都内デモ行進、国際シンポジウムを開催し、広島酪農政治連盟(藤岡辰彦委員長)から藤岡委員長と森田康博(博主事(広酪総務管理課))の二名が参加した。

■街頭演説会に千五百人が参加

(東京有楽町駅前広場・日比谷公園)

▼山田正彦前農林水産大臣(民主党)は「TPPは農業だけの問題ではない。もし参加すれば日本そのものが変わってしまう。皆さんTPP交渉参加反対に向けて頑張りましょう」と呼びかけ、会場からは大きな拍手が沸き上がった。(写真左…上)

▼デモ行進は日比谷公園をスタートし、シユプレヒコルをあげながら国会議事堂がある永田町まで行った。国会議事堂前では民主党のTPP反対議員が待機され、デモ参加者と共に



「TPP交渉参加断固反対」と高らかな声をあげられていた。(写真左…下)

■国際シンポジウムに千三百人

(国会議事堂前・平河町砂防会館)

▼ニュージールランド・アメリカ・韓国・日本の学識者による講演が行われ、「交渉ではTPP参加国が日本にプレッシャーをかけているが、逆に日本が参加国にプレッシャーをかけなければならぬ」「アメリカ国内でもTPPは国民から指示されておらず、指示しているのは大企業のみ」「TPPはいわば『手錠』みたいなもの」と力説された。

▼質疑応答では、熊本県の酪政連関係者から「日本に不利な条件であれば、TPPをやめれば良い」と聞かすが、そう簡単に止めることが出来るのか?との質問に対して、山田前大臣は「恐らく途中で止めることは出来ないであろう。それはむしろ

空論。そうならないよう日本を交渉に入らせないことが重要で、そのためには世論を盛り上げ、国民全体で総力を挙げ反対を貫く必要がある」と力強く応えられた。

▼最後は、参加者全員の「ガンバロー三唱」で意識統一を図り締めくくった。

▼藤岡委員長は「政府はTPP交渉を内々に進めているが、情報は公開すべきである。我々は今後も積極的にデモや運動に参加することが重要」と述べた。

「TPPでどうなるニッポン」 (東谷暁氏講演他)のネット配信

長崎県で2月19日に開催された講演会の模様がインターネットで配信されています。「TPPでどうなるニッポン」で検索又は、JA長崎県中央会のホームページからもリンク可能です。ご視聴のうえ、TPP交渉参加阻止に向けた活動にご活用下さい。配信元は①Ustream、②YouTubeです。